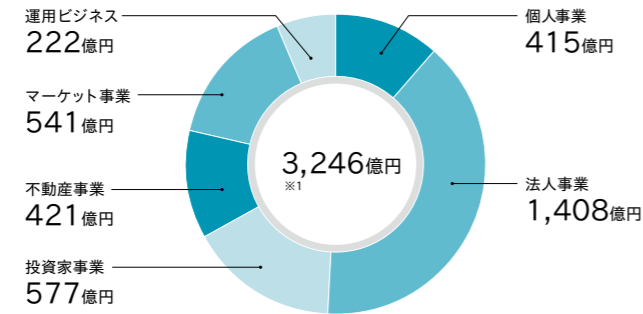


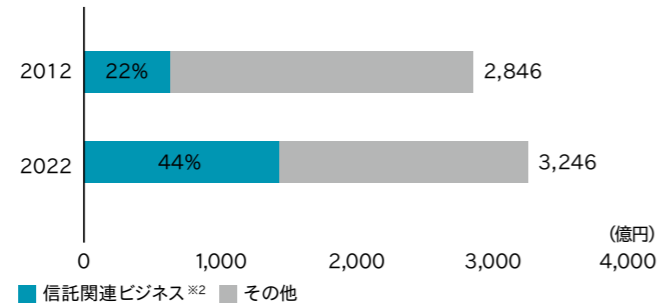
事業戦略

セグメント別実質業務純益 (2022年度)



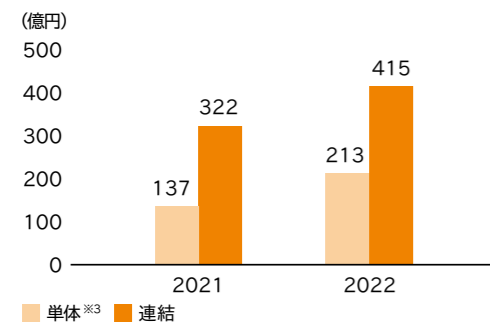
※1 各セグメントの実質業務純益合計に加え、報告セグメントに区分されない経営管理本部のコストなどの金額を含む

実質業務純益の推移



※2 2012年度：証券代行業業、受託事業、不動産事業の合計値
2022年度：投資家事業、不動産事業、運用ビジネスおよび旧証券代行業業に相当する業務純益の合計値

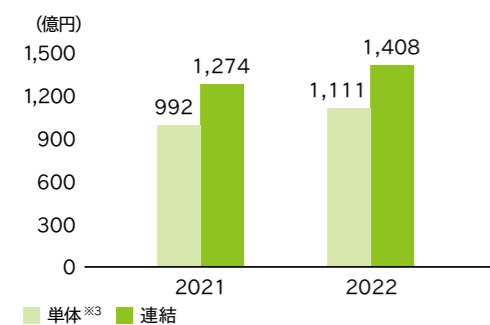
個人事業 実質業務純益の推移



投資運用コンサルティング関連は、投信販売手数料が減少した一方、保険販売手数料が増加し前年度並みの水準となりました。また、UBS SuMi TRUSTウェルス・マネジメントからの収益寄与もあり、実質業務純益は単体※3では前年度比76億円増益の213億円、連結では同92億円増益の415億円となりました。

- 主要子会社・関連会社
- ・三井住友信託銀行
 - ・三井住友トラストクラブ
 - ・三井住友トラスト・ウェルスパートナーズ
 - ・三井住友トラスト・ライフパートナーズ
 - ・UBS SuMi TRUSTウェルス・マネジメント

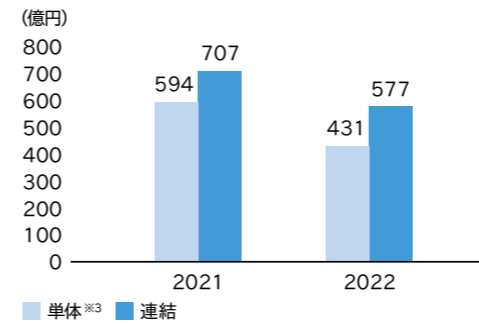
法人事業 実質業務純益の推移



与信関連手数料の増加に加え、証券代行関連手数料が安定的に推移した結果、実質業務純益は単体※3では前年度比119億円増益の1,111億円、連結では同133億円増益の1,408億円となりました。

- 主要子会社・関連会社
- ・三井住友信託銀行
 - ・三井住友トラスト・パナソニックファイナンス
 - ・三井住友トラスト・ローン&ファイナンス
 - ・泰国三井住友信託銀行
 - ・紫金信託
 - ・東京証券代行
 - ・日本証券代行
 - ・三井住友トラストTAソリューション
 - ・日本株主データサービス

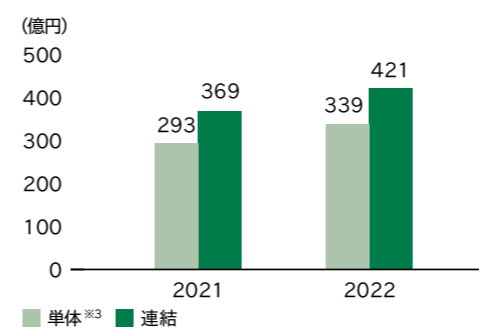
投資家事業 実質業務純益の推移



年金業務が安定的に推移したことや、海外の資産管理子会社が収益に寄与した一方、組合出資関連収益（外貨）が減少した結果、実質業務純益は単体※3では前年度比163億円減益の431億円、連結では同130億円減益の577億円となりました。

- 主要子会社・関連会社
- ・三井住友信託銀行
 - ・日本カस्टディ銀行
 - ・米国三井住友信託銀行
 - ・三井住友トラスト・アイルランド
 - ・日本ペンション・オペレーション・サービス

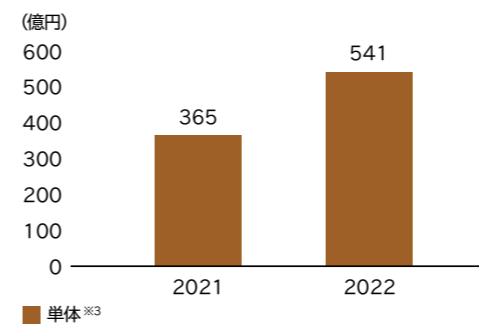
不動産事業 実質業務純益の推移



個人向け仲介が堅調に推移するとともに、法人向け仲介も大型案件の成約を含め好調に推移した結果、実質業務純益は単体※3では前年度比45億円増益の339億円、連結では同52億円増益の421億円となりました。

- 主要子会社・関連会社
- ・三井住友信託銀行
 - ・三井住友トラスト不動産
 - ・三井住友トラスト基礎研究所

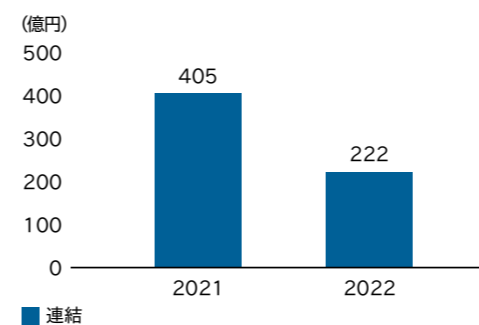
マーケット事業 実質業務純益の推移



顧客サービス関連収益が好調に推移したことにより、実質業務純益は前年度比175億円増益の541億円となりました。

- 主要子会社・関連会社
- ・三井住友信託銀行

運用ビジネス 実質業務純益の推移



時価下落を主因とした資産運用残高の減少に伴う収益減少に加え、前年度に寄与した提携出資先からの配当が剥落した結果、実質業務純益は前年度比182億円減益の222億円となりました。

- 主要子会社・関連会社
- ・三井住友トラスト・アセットマネジメント
 - ・日興アセットマネジメント
 - ・スカイオーシャン・アセットマネジメント
 - ・JP投信

※3 三井住友信託銀行 (単体)